

作業や生活にやる気をもって取り組む子の育成 —— K・O児の美術科(ちぎり絵)の指導から ——

小 沢 貴美江

1 対象児のプロフィール

生徒名 K・O(男) 昭和45年12月22日生。(中学部2年) IQ41(WISC)

鳥取市立A中学校特殊学級1年の途中転入学し、現在に至る。

(1) 一般的特性

中2としてはやや小柄で体に軽い麻痺がある。やや重度の障害の多いクラスの中にあって、ほとんど会話の成立しない他の生徒とは異なり、かろうじて会話の成立するのが本児である。学習や作業の中では常に他のことが気になり、ぼおっとしたりよそ見が目立つ。また初めてすることや気が重いことになると他人に頼ったり、甘えたりしがちである。


(2) 問題点と研究に取り上げた理由

体に麻痺があり、手足を動かしたり、運動する際にスムーズに動くことができない。そういった身体的不自由と家庭的環境に恵まれないために、基本的生活習慣が身につけていない。また、常に他のことが気になって、しょっ中きょろきょろしたり、ぼおっとして何もしなかったりすることが多く、学習や作業に集中できない状態である。このため、注意や叱責をされたり、学習に身が入らず、また作業もほとんどやらなかったり、やり直しをしたりということがくり返されていた。このため基本的生活習慣を毎日毎日積み上げることにより、身につけると共に集中力をつけてやる気を持ち、与えられた作業等をやり通す。そしてやり通したことによる自信をもって物事に取り組む子、そういった子どもに育成したいと考えた。

2 個人目標の設定と研究方法

(1) 個人目標の設定

集中力を持ち、意欲的に取り組む子に育成するために、殊に作業学習や作業的な学習にがんばらせようと考えた。

作業学習(木工のくぎうち、農園作業等)  集中力を持ち意欲的に取り組む子の育成
作業的学習(ちぎり絵) —— 美術科

(2) 研究の方法

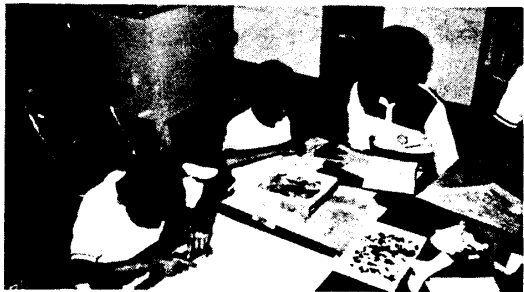
美術の時間を中心に、ちぎり絵を取り扱うことにした。週2時間(連続)は、5人の生徒と担任2人が色紙を使ったちぎり絵に取り組み、K・O児には余暇時間も取り組ませた。その中で、同じ作業のくり返しで作業工程で意識化させることで、技能的にも定着し、少しでも集中して取り組めるようになるのではないかと考えた。また、作業に習熟し、技能的にも定着することで自信を持ち、やる気

もできるのではないかという仮説をたててみた。

3 授業の構成と指導の手だて

(1) 授業の構成

ちぎり絵学習の中ではる部分の授業の構成のあらましを取り上げると。

学 習 内 容	K・O児の主な活動	指 導 上 の 配 慮
①ちぎり絵に必要な道具や材料を準備させる。 ②ちぎり絵に取り組む。 ・やることの確認と目標を知る。	①一人で手順よく準備する。 ②・どこまでするか指導者と話し合って決める。 ・よそ見をしないで取り組む	①道具や材料のおき場所を決めておく。 ②・色紙はちぎってほぼ一定の大きさにしたのを用意する。 ・おてふきの使用を忘れないようにさせる。 ・特にはり方の悪い部分は、その場でやり直しをさせる。 ・最後までやりぬくように、注意を与えたりはげましたりする。 ・K・O児の体調や気分にも留意する。
	・誰にも頼らず一人ががんばる。 ・静かに取り組む。 ・音楽を聞きながら取り組む。	
③できたところを見せ合う。 ④片づける。	③作品を見せ、反省をいう。 ④準備したものを一人でさっと片づける。	③ほめたりはげましたりする。 ④最後まできちんと片づけさせる。

(2) 指導の手だて

ちぎり絵と取り組む過程でK・O児に対して行った手だては次のようなことである。

- ① ちぎり絵の題材は本児の興味・関心をひくものにする。身近な題材であり、よく知っているもの、或いはかわいらしくてやりたいなあと感じるようなものであること。
- ② K・O児にはなるべく手助けをせず、一人でのりをつけたりはったりさせる。
- ③ やりやすい雰囲気を作る。題材に合わせて静かに黙々とさせたり、題材に合った音楽をかけて楽しくさせたりする。
- ④ 学習の中で目標をもたせる。今日はここまでやろうね。これこれに気をつけよう等である。学習の終わりの段階で点検し、ほめたりはげましたりする。
- ⑤ 毎時間やり方や学習の流れを変えないで、同じ方法をくり返すようにする。

K・O児がちぎり絵の学習をくり返すことによって、よそ見はしても、手を休めずに続けられるようになること、喜んで学習に取り組むようになること、作品の向上が見られること等を期待して学習を進めていった。

4 指導実践例

(1) 事例Ⅰ いなかのねずみと町のねずみ 背景画の作成

下絵を指導者が描き、生徒がそれに着色したり、ちぎり絵をはっていったりした。

- ① K・O児が色紙をはる様子 —— のりを大量につける。その上、のりのついている部分とついていない部分とがある。画面はのりだらけである。のりのつけ方が悪くて、はった紙ではぐれてしまったものもある。手の汚れとのりがベタベタついて、とてもきれいなできとはいえない。

色紙をはる間にも、色紙から目が離れてしまったり、はりながらよそ見をしたり、手の休むことが多かった。

- ② K・O児の様子から、わかった問題点

- ・のりをつけすぎる。
- ・紙にのりをつける時、目が手元から離れてしまう。このため、きちんとはれなかったり、重なったりして、いい可限なはり方になってしまう。
- ・指先の動きが悪い。非常な苦勞をしてのりをつけようとするが、うまくのりにつかないし、はるのも手間どる。
- ・のりをつけた紙をはる時、手の平でパンパン叩いて押さえるが、汚れが画面のあちこちになってしまう。
- ・よそ見をして手がよく休み、作業がなかなか進まない。

- ③ 改善を加えたこと。

- ・手につけすぎたのりや、手の汚れをとるため、おしぼりを使うこと。
 - ・K・O児のはった量やでき具合がわかるようにすること。そこで、ばらばらにあちこちはっていたのを続けてはるようにさせ、他の友達とのできた量やでき具合を比較させる。
- また、自分のはった部分のはり方はどうか。のりがついていなかったり、はがれたりしてはいないか。汚れはどうか。といった点について指導者と共に点検することにした。

(2) 事例Ⅱ 「うさぎとかめ」 うさぎとかめの作成

「うさぎとかめ」は、みんながよく知っている題材である。ちょうど時機は運動会でもあり、K・O児も「うん、やりたい」とすぐに飛びついた。指導者が描いたうさぎとかめに、好きな色ではらせていった。

- ① K・O児の様子と問題点

- ・はった部分が下絵の線からはみ出す。
- ・おしぼりを使ったため、画面の上での汚れがなくなり、のりのつけすぎも軽減してきた。
- ・友達とでき具合や量を比較されるため、わずかではあるが、ぼおっとして何もしない時間は減った。しかし、相変わらずよそ見は多かった。

② 考慮した点

- ・はる時下絵の線からはみ出すのは、手や指先がうまく動かないためであると同時に、目が指先から離れてしまうためであろう。しかし、この点をあまりやかましくいっても効果がない。せっかく喜んで始めたのだから、その気持ちを大切に、手が休まないようにする指導を続けると共に、以前よりよくなった点を取り上げるよう心がけた。

(3) 事例Ⅲ 学習発表会の作品 ふねの作戦

ふねとか自動車は、K・O児の好きな乗り物であり、大きなふねの絵を描いてはり絵をした。

① K・O児の様子について

- ・喜んでやり続けた。
- ・下絵にないものを自分で考えだし、はり絵をしたいといった。(例、かもめと太陽)
- ・はり絵が完成した時、とても喜んだ。指導者が上手にできたことをほめると、とてもうれしそうな様子で、発表会の作品展を心待ちにした。

② 考慮した点

- ・できるだけほめるよう心がけた。
- ・指導者とK・O児と、休憩時間等に一对一でやる時間を多くした。
- ・よそ見や手が休むと、目や指さしで注意した。

5 考察と反省

事例を通して、次のようなことが考察された。

- よそ見はするが回数は減った。よそ見はしても手が休まないようになった。
- よそ見が減り、やる気が出たことで、少しずつ作業が長続きし、集中力もできた。
- 何度もくり返しやったことで、作品のできも向上した。

以上のようなことから、作業や生活にやる気をもって取り組む子になることをねらって進めてきたが、指導を通して、少しはねらいに近づけたと思う。最近特に気づいた変化では、①ちぎり絵の学習の中で、歌を口ずさんだりしながらやることもある。②美術科以外の学習や生活の中でも、よそ見は確かに減ってきた。③作業学習(木工のくぎ打ち作業)でも集中して取り組み出した。しかし、まだ改善すべき点がないわけではない。例えば、やる気を妨げる技能的な未熟さや身体的不自由であり、どんな作業や学習にも、やる気をもって長続きできるかどうか等、考えてみなければならない点がある。

6 今後の課題

手や指の巧緻性をつけて、技術の向上や作品の質の向上、作業能率をよくする必要があると共に、ちぎり絵以外にも集中力を育てるような工夫と取り組んでみたいと考える。